

中村・栗賀町は北部の鉾山と姫路の港を結ぶ道路にある江戸時代から明治時代にかけての宿場町であった。最盛期にはその町に 40 軒以上の店があった。江戸時代にさかのぼる二つの建物が今も残っている。それらは裕福な商人の竹内家住宅と難波酒造の酒蔵である。「銀の馬車道(現在は銀の馬車道として知られている生野鉾山寮馬車道)」が 1876 年に建設されたとき、中村・栗賀町は途中の重要な宿場町として残っていた。1894 年に、生野鉾山から銀を輸送するため播但線が作られた。旅行者は鶴居駅から馬車に乗り、栗賀の驛（うまや）で馬車を乗り替えた。